

ぽっかぽか 12月号

少し前までは季節外れの暖かさに驚きもありましたが、日に日に空気が冷たく感じるようになりました。らいおん組の子どもたちは、寒さに負けず、子ども会に向かって日に日にアツくアツく頑張っています。

子ども会に向けて

成長が
いっぱい

劇「ももたろう」

…前段…

運動会が終わり、子ども会にむけて劇の題材になりそうな昔話や童話・民話を中心に読み聞かせを行ってきました。すると、すでにそこで子どもたちの成長を実感する出来事が起こりました。

それは、視覚情報に頼らずに話の内容を理解できるようになってきたことです。

最初はディズニーなど映画のタイトルにもなった有名な話や今までの劇の題材になった本を読んでいきました。(かにむかし、シンデレラ、三匹の子ブタなど)。主に休息の時間でのことですが、横になりながら耳を澄まして聴き、絵を観なくても話の展開に笑ったり驚嘆したりと反応するようになりました。【イメージする力】が高まってきたのです。

お集まりでは、イメージがより具体的になるように同じタイトルの絵本を見せながら読み聞かせをし、もっと物語に親しみを持てるよう、「どうしてシンデレラって名前がついたのかなあ」や「2匹目の子ブタさんはどんな家をつくった？」など読み聞かせの前後にクイズをしたり、感想を言ってもらう機会をつくりました。

こうしてお話の世界が好きになっていった子どもたちは、知らないお話も楽しんで聞けるようになり、【想像する力】を発揮できる子が増えました。『オオカミと7匹の子ヤギ』の読み聞かせを終えた時です。子どもたちが、池に沈んだオオカミのその後を気にして「しんじゃったのかなあ?」「でも、およげるんじゃない?」「重い石だからむりだよ」など自分たちの考えや思いを伝えてくれるようになりました。そしてそのころから、「劇でやりたい」という声もちらほらあがりだしたのです。

…主体性のある劇遊び…

さあいよいよ劇決め会議です。(前置きが長くなりすいません)
ルールは、「全員が納得すること」と「多数決やジャンケンではなく話し合いのみで決める」です。

1回目の会議では、一人ひとりが理由を添えて自分のやりたい劇を発表しました。その時点では、「たのしそうだからももたろうがいい」「かわいい人魚姫になりたいから」「好きだからぱっぴっぶっべぼーのパンケーキがいい」など個の考え(主観)でした。

しかし、どんな劇をお父さんお母さんにみてもらいたいのか?クラスみんなが楽しい劇をするには?など大人が話し合いを進めるためのヒントをいくつか伝えると、「パンケーキの絵本のはなしはすぐおわっちゃうから劇にならない」「人魚姫はこえをとられちゃうからセリフがいえぬいよ」と見られることを意識して(客観)、意見がでるようになり、候補を絞っていきました。2回目の会議では、みんなが知ってる桃太郎をやりたい子たちとどうしてもかわいい姫になるのが諦められない人魚姫グループとで二分しましたが、最終的に「ごっこ遊びで姫になれればそれでいい」という人魚姫グループの子たちが納得をし今年のらいおん組の劇は「ももたろう」に決まりました!

現在、練習の真っ最中、子どもたちは自分たちが選んだ劇を自分たちなりの表現でお父さんお母さんに見せようと張り切って取り組んでいます。

年長の劇のねらいである「劇づくり」も思う存分、楽しんでおり、アイデアも次から次へと出てきます。結末は、もしかしたらみなさんの知っている桃太郎ではないかもしれませんが、子どもたちの「主体性」を大切にした『シン・モモタロウ』として楽しんでいただけたらと思います♪
乞うご期待!!

★劇づくりの流れ

①劇決め

②役決め&衣装、小道具づくり

一人ずつに聞き取りをする最初の投票では主役の桃太郎が、やはり一番人気でしたが、その次に希望が多かったのは、キジ役。理由を訊いてみると「だってそらとびたいから」と9人もの子が立候補しました。子どもたちのイメージする力は面白いですね。そしてその次は姫役が多く、会議で発表しどうするかを問いかけると、クラスのことを考えて譲ってくれたり、中には、譲る代わりに「可愛いおばあさん役になる!」とポジティブに転換できる子もいてビックリ! 配役が決まると、今度は衣装や小道具などでイメージを表現しようと制作を進めています。

③セリフづくり(台本)

昔話特有の言い回しを現代語に変換をしたり、逆にリズム感の良さなどから「そのまま言いたい」など役ごとに考えてもらいました。役のセリフを考える上で自分と投影して、桃太郎役の子が、「家来になってついてこい」と言うよりも「一緒に行こうがいい」と相談されることがありました。また、鬼役の子に、どうして姫をさらったんだと思う?と聞いてみるとこれまた面白い回答が! それを姫役の子に伝えると姫役の子も快諾し、少しずつ原作と違うアレンジができていきました。自分たちで考えた分、セリフの呑み込みも早かったので、今回ご家庭での練習用にお渡しする台本はありません。子どもたちの吸収力、やる気、意欲は、我々担任の想像を凌駕するものでした。素晴らしい!!

④動き・表情づくり

セリフに合わせた動き・表情を考えました。セリフによっては動きをつけられないと悩む姿もありましたが、どんな気持ちで言っていたのかが表情でわかるといいね。と伝えると「じゃあなくてもいっか」と選択できました。

⑤仲間と一緒に劇をつくりあげる

舞台での姿勢・声を揃えること・出番がわかることなど毎日ステップアップしながら練習をしています。そして練習を通して友達や他クラス、大人の反応を反映し、表現方法を修正したりしながら劇をつくっています。実際「笑うシーンじゃないのに笑われるのが悲しい」丸々チェンジしたシーンもあります。発信できた子もその子話を聞いて協力できた子どもどちらも素敵ですね♪
本番までたくさん表現方法を試し協力しながら劇をつくりあげてほしいです。